

松江市 出雲郷公民館

1 出雲郷地区及び東出雲地区の概要

出雲郷地区	人口 6,012 人	世帯数 2,076 世帯	高齢化率 18.25%	
	学校 小学校 1	幼稚園 1	保育所 3	
東出雲地区	人口 15,489 人	世帯数 5,480 世帯	高齢化率 23%	
	学校 中学校 1	小学校 3	幼稚園 3	保育所 5
	公民館 4	(出雲郷地区を含む)		

東出雲は松江市の東部に位置し安来市と隣接している。その中で出雲郷地区は東出雲の西部にあって、汽水湖・中海の湖岸から南に向って延び、水稲や野菜栽培など都市近郊農業が行われている。近年は埋め立てによる造成地に、住宅団地の建設が進み、新興住宅が増加してきた。町内には、古事記に登場する揖屋地区の黄泉比良坂や、ホーランエンヤの船神事で著名な出雲郷地区の阿太加夜神社などがある。

2 松江市出雲郷公民館の概要

(1) 地域の課題

出雲郷公民館が公民館としての体制を整えたのは昭和 48 年で、公民館の建物は昭和 50 年に建設された。その後、平成 21 年 11 月に旧公民館を離れ、現在地に新館が竣工した。

新公民館は、芝生の広がる「出雲郷ふれあい広場」を挟んで小学校、幼稚園、保育所と隣接している。その関係もあって、公民館の事業も「子どもエコクラブ」「子どもの集い」「子ども生け花クラブ」「クリスマス音楽会」、文化祭では「小学生俳句大会」など、子どもを対象にしたものが多い。

こうした事業を通して公民館に親しみ馴染んだ子どもたちが、中学生になったらほとんどの子が、公民館から遠のいてしまう。また、子どもたちをサポートする大人も限られた人たちになっている。

中学生になってからも公民館に来てくれるように、地域住民との交流の機会をどのように設定するか、これと並行して、子どもたちを支える大人、特に家にこもりがちになる高齢者に、どういう方法で地域活動への参加を促すのか、地域活性化のためにも、さらに高齢者の生き甲斐のためにも重要になっている。

(2) 課題解決に向けた公民館の戦略

大人同士のつながりや、大人と子どものたちの協調によって、お互いの絆が強まることで地域力の醸成に結び付ける。そのために、公民館が中心になって進める「ふるさと教育」により、地域課題の解決に向けて取り組むこととした。

現在、推進されている小・中学校の「ふるさと教育」「キャリア教育」は、学校サイドの教育方針とカリキュラムに基づいて行われていると言ってよい。学校の要請によって、ボランティアとして協力するけれど、それが「ひと・もの・こと」を活用した学社連携・融合の教育活動にはまだ至っていない。

その要因の一つは、地域住民に「ふるさと教育」に対する認識が足りなく、十分に理解されていない点にある。

「地域の子どもは地域で育てる」を前面に打ち出し、まずは公民館事業を通して、小・中学生を迎え入れ、「共に話し合い」「共に行動し」「共に成長する」をモットーに進めていく。そのためには、地域住民が自分たちの責務として受け止め、地域活動に参加できる体制を構築していきたい。

3 特色のある取組

子どもたちと共に歩む地域づくり

(1) 事業のねらい

ア 小・中学生が参加することにより、大人たちの地域活動への参加意欲を高める。

イ 子どもと大人の協調を基軸にして、未来に向けた地域力の醸成に結びつける。

そのために、公民館事業の中から、小・中学生の参加可能な事業をピックアップし、小・中学校と連携をとり、事業への参加を積極的に呼びかける。

(2) 具体的な取組

ア 春の「花咲き隊」 結団式（5月15日）一斉活動（5月17日）

結団式は出雲郷小学校体育館で全校児童 426 名、教職員は校長先生をはじめ 23 名。

地域からは 17 地区の花咲き隊代表各 1 名と、公民館の 2 名がそれぞれ参加。今年度の花咲き隊の活動を約束。活動日には小学生 250 名、大人 85 名が参加。

秋の「花咲き隊」 一斉活動（10月18日）小学生 210 名 大人 70 名が参加。

イ 出雲郷地区文化祭及び出雲郷小学校意宇まつり（10月26日）

中学 3 年生 10 名、2 年生 3 名が参加。青空バザール（野菜販売）、ポップコーン、当てくじの模擬店を担当。大人のボランティア 36 名をはじめ、スタッフ、地域住民、団体の模擬店と一緒に活動した。当日の人出 1600 人。

ウ 町内 4 公民館と町内の文化祭に参加した中学 3 年生との懇親会（12月10日）

ボランティア参加者 34 名の内、3 年生 15 名、校長先生、松江市生涯学習課 2 名、公民館 9 名（館長・主事）が出席。ボランティアに参加した感想を聞くなど意見交換をする。

エ 出雲郷とんどさん（1月11日）出雲郷小学校校庭。前日の作業も併せて、中学生 5 名、小学生 37 名が参加。当日はスタッフ、大人のボランティア 40 名と一緒に、餅つきや、しめ縄の針金、柑橘類の取り外しをした。当日の人出 400 人。



文化祭での模擬店



中学生との懇親会



とんどさん準備

(3) 成果と課題

ア 成果

4 公民館と中学校の連携もあって、中学校にボランティア部が創部され、ボランティア参加を全校生徒に呼びかけるようになった。参加した小・中学生からは、「大人の人と話しができてよかった」「ありがとう、お疲れさまと言ってもらって嬉しかった」といった感想があった。大人も「小学生に元気をもらった」「中学生のがんばる姿を見て張り合いが出た」など、大人の活動意欲を高める動機付けになった。

イ 課題

大人、特に高齢者の意識づけと参加が十分とは言えない。小・中学生の参加を継続させながら、大人同士のつながりの輪を広げていくことが課題である。

(4) 今後の方向性

中学生の感想の中に「高校生になってからも、公民館の事業に参加したい」という声が大半だった。この言葉を力にして、中学生・高校生が地域住民と共に活動できる環境づくりに取り組んでいく。また大人に対し、理解の深化を図りながら声がけをしていく。